

長滝白山神社・長滝寺散策マップ

入峯堂跡
白山で修行する修験者たちが、山に入るために7日間の修行を行ったとされるお堂があつた場所です。山伏たちは、ここから山中の修行場（宿）を巡り白山へ登りました。

経蔵（薬師堂）
古い絵図では薬師堂として描かれ、江戸時代には宋版一切経の経蔵ともなつたいた場所です。明治時代の大火で焼失した後、薬師如来像を祀る薬師堂として再建されました。

白山長瀧寺大講堂
天台宗の寺院、白山長瀧寺の大講堂です。かつては長滝の僧侶たちが集まつて法会を開いたり、仏教經典を学んだと伝わります。明治32年の大火で焼失する前は、本尊として大日・釈迦・阿弥陀の3如来と四天王などを祀り、神社拜殿とは渡り廊下で繋がっていました。

三重塔跡・開山堂跡
白山瀧宝殿の木造釈迦三尊像が安置されていたとされる三重塔が建つていた場所です。塔は中世の大地震や大風により倒壊し失われたと伝えられます。また、塔に隣接して白山を開山した泰澄大師を祀る開山堂があつたと伝えられています。

拝殿

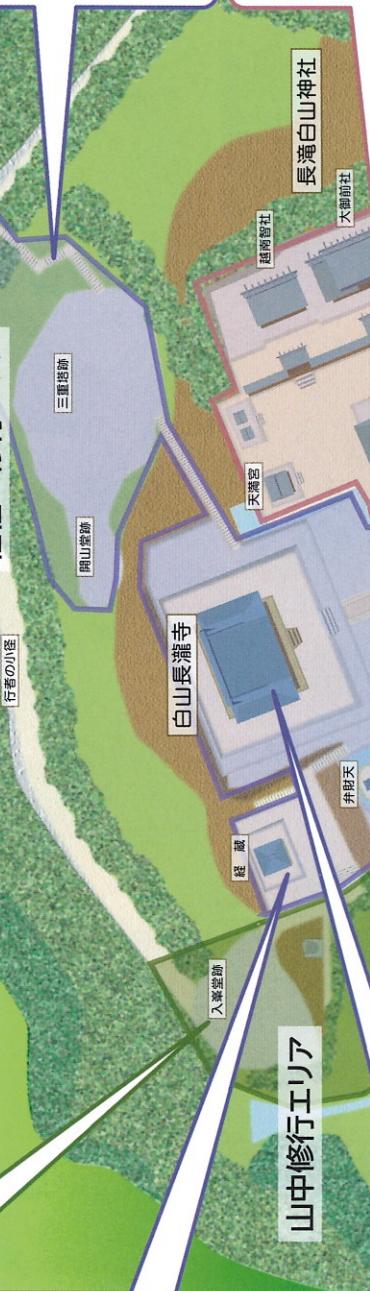
現在の拝殿は、明治32年の大火で本殿と共に焼失したものを大正年に再建したものです。ここでは毎年1月6日に「六日祭」が行われ、「長滝の延年」の舞と、拝殿天井に吊られた花笠の花を奪い合う「花奪い」が行われます。

本殿

長滝白山神社は明治初年の神仏分离までは白山中宮長瀧寺として長瀧寺と一体で東海地方の白山信仰の拠点として栄えました。本殿の三つの社は、中央に白山御前峰、東に別山、西に大汝峰（越南智）のご祭神が祀られています。

牛王石
長滝白山神社境内にあるこの石は白山中宮長瀧寺ができる前からあるとされ、石徹白の白山中居神社の磐境（いわさか）同様に、太古の自然信仰に基づく神が降りる場所であったともいわれています。

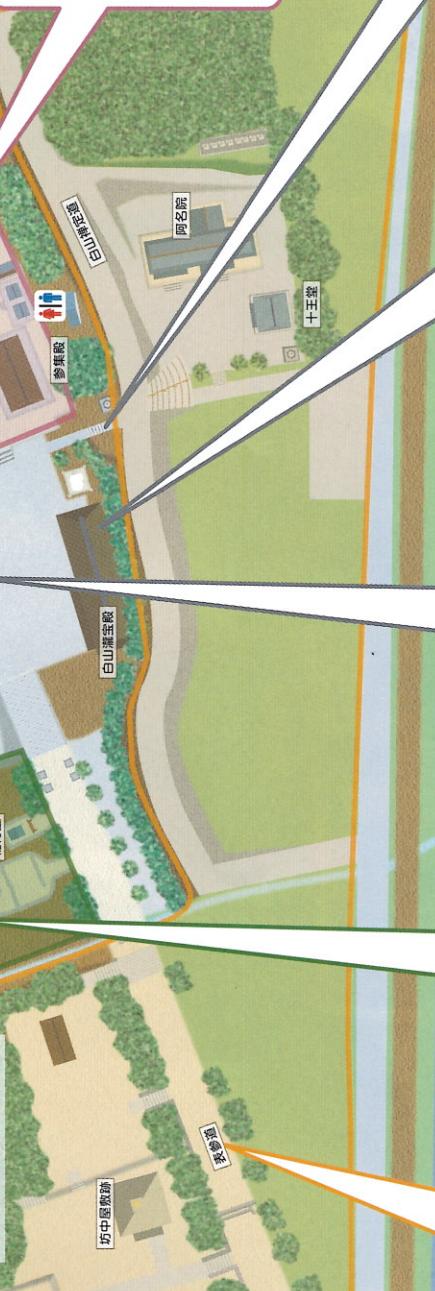
僧侶の修行エリア



山中修行エリア



宿坊・坊中エリア



金剛童子堂

境内の中央に建つ石灯籠は、鎌倉時代の正安4年（1302）の寄進銘が刻まれており、国の重要文化財である「釈迦三尊像と四天王像」などが拝観できます。

白山瀧宝殿

長瀧白山神社・白山長瀧寺・長瀧寺の三社寺の文化財を納めた収蔵施設です。白山長瀧寺所蔵の国の重要文化財である「釈迦三尊像と四天王像」などが拝観できます。

参道入口

いにしえの参詣者たちも通った白山中宮長瀧寺の入口です。「天台宗 白山長瀧寺」「表本宮 白山神社」と記された石柱が並ぶ姿に、神仏習合の名残が感じられます。

石灯籠（正安4年銘）

境内の中央に建つ石灯籠は、鎌倉時代の正安4年（1302）の寄進銘が刻まれており、国の重要文化財に指定されています。

至道の駅 白鳥 白山宮修古館